

今月の一品 令和 7(2025)年 8 月



飯能市立博物館
Futatabi City Museum

戦時下の青年女子向け雑誌

飯能市立博物館 学芸職員 金澤 花陽乃

今回ご紹介するのは、『青年 女子版』という、女子青年団員に向けて戦時中に刊行された雑誌です。女子青年団とは、大日本青少年団という青少年組織の女子部を指します。大日本青少年団は、それまで独立して存在していた大日本青年団・大日本連合女子青年団・大日本少年団連盟・帝国少年団協会を統合して 1941（昭和 16）年に設置されました。国民学校初等科 3 年以上の青少年少女と、上級学校に通学していない 25 歳までの男女勤労青少年が団員となり、食糧の増産や軍人援護、防空訓練などを行いました。女子部には、国民学校高等科卒業の 14 歳から 25 歳までの女子が所属しました。

ここでご紹介している 1943（昭和 18）年 8 月号では、特集として「守ろう空の第二陣」が組まれています。各記事を見ると、



『青年 女子版』8月号表紙

もんぺ姿にメガホンを持った女性の姿が描かれ、左上には「敵も必死だ」の文言が見える。



巻頭の特集 1

航空兵の写真とともに勇ましい言葉が並ぶ。



巻頭の特集 2

少年飛行兵の多くが青少年団出身であるとして、「君たちの進むべき道はおのづから明示されているではないか。先輩のあとを追って征くのだ。大空へ。大空の、否、祖国の決戦場へ！」と結んでいる。

航空戦の重要性が繰り返し説かれるとともに、男子は航空兵として空の最前線へ、そして

女子は前線へ向かった男子の代わりとして監視哨の連絡や聴音といった空の第二線や銃後を守り、男子に代われることは何でも引き受けて働くべし、ということが訴えられています。また、男子が航空兵を志願する際に最も妨げとなるのが母親や祖母の情であり、国を想う義の心に重きを置くべきであり、我が子可愛さに子どもの志願を妨げることがあってはならない、といった記述も見られます。

当時、日本は既に劣勢に立たされ、制空権を失いつつありました。軍は兵力の増強を急ぎ、若年層の志願者を募りました。今回ご紹介したように、雑誌などのメディアも航空機をはじめとした勇ましい記事をこぞって載せ、青少年たちの戦意高揚を図りました。

【お知らせ】

飯能市平和都市宣言推進事業「戦後 80 年 こどもたちの戦争」
8 月 31 日日曜日まで